＜公正な持続可能社会を求めて＞講演とディスカッション

脱原発と再生可能エネルギー

7.23(土)

15:00～18:30 開場14:30

入場無料　事前申込不要

龍谷大学大宮キャンパス　東黌(とうこう)103号教室(定員450人)

〒600-8268　京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1

飯田哲也
「脱原発と再生可能エネルギー促進　必要な政策と行動とは」

アイリーン・美緒子・スミス
「原発をめぐる日本社会とメディア」

朴勝俊
「原発事故の被害総額　京都に迫る危険性」

コーディネーター　丸山徳次（里山学研究センター研究員、龍谷大学文学部教授）

飯田 哲也
環境エネルギー政策研究所所長

アイリーン・美緒子・スミス
グリーン・アクション代表

朴 勝俊
関西学院大学准教授

■主催　龍谷大学里山学研究センター
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

■共催　NGO e-みらい構想

■後援　「龍谷の森」里山保全の会

■お問合せ　里山学研究センター
Tel/075-645-2154(内線6352)　Fax/075-645-2240
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

背景写真提供　スカンジナビア政府観光局

＜公正な持続可能社会を求めて＞講演とディスカッション
「脱原発と再生可能エネルギー」開催趣旨

東日本大震災、とりわけ福島「原発震災」は、これまでの日本社会と、これからの私たちの社会の在り方を問いかける歴史的事件となりました。いま原子力発電の問題を改めて考えることは、主権者・納税者・消費者である市民と今後の社会を担う学生の責務でしょう。公正な持続可能社会を求めて、再生可能エネルギーへの転換をはかるにはどうすればよいのか。積極的な政策提言を含む３つの講演を通して、ともに考えたいと思います。

世論をリードするエネルギー戦略家
ミスター・エネルギーシフト

飯田 哲也　*Iida Tetsunari*　環境エネルギー政策研究所所長

1959年、山口県生。京都大学原子核工学専攻修了。東京大学先端科学技術研究センター博士課程単位取得満期退学。大手鉄鋼メーカー、研究機関などで原子力Ｒ＆Ｄに従事した後に退職。現在、科学者であると同時に非営利の研究機関の代表を務める他、複数の環境ＮＧＯも主宰。自然エネルギー政策の第一人者として知られ、政府および地方自治体のエネルギー政策に大きな影響を与えている。また、国際的にも豊富なネットワークを持ち、国際バイオマス協会・世界風力協会などの理事を務める。さらに日本を代表する社会イノベータとして、自然エネルギーの市民出資など、研究と実践と創造を手がけた。政権交代後に中期目標達成タスクフォース委員、行政刷新会議の事業仕分け人、環境省中長期ロードマップ委員などを歴任。

主著に『北欧のエネルギーデモクラシー』、共著に『原発社会からの離脱―自然エネルギーと共同体自治にむけて 』(講談社現代新書)、『今こそ、エネルギーシフト』(岩波ブックレット)、『グリーン・ニューディール―環境投資は世界経済を救えるか』(NHK出版)、『日本版グリーン革命で経済・雇用を立て直す』(洋泉社新書)、訳書に『エネルギーと私たちの社会』など。

写真家・活動家・そして母でもある
国際的環境ジャーナリスト

アイリーン・美緒子・スミス　*Aileen Mioko Smith*　グリーン・アクション代表

1971年、世界的に著名な写真家、ユージン・スミスと結婚。夫と共に71年～74年まで水俣に住み、共同で撮影・取材を続け、75 年アメリカで写真集『MINAMATA』(Holt, Rinehart and WinstonInc.)を出版。世界に水俣公害の悲劇を伝えた。80年、日本語版『水俣』(三一書房)出版。コロンビア大学で環境科学の修士号取得。以後、環境ジャーナリストとして公害、原子力・エネルギー問題などの取材・調査を行う。79年に起きたスリーマイル島の原発事故では、調査のため現地に1年間居住し住民インタビューを続けた。

83年以降、福井県若狭湾の原発安全問題に取り組み、原子力委員会の長計の円卓会議・高レベル廃棄物関連にも招聘され、提言を行うなど、活躍を続けている。
NGO「グリーン・アクション」代表。京都在住。

自動車・エアコンなし
築百年の町家に暮らす
省エネ・エコノミスト

朴 勝俊　*Park Seung-Joon*　関西学院大学准教授

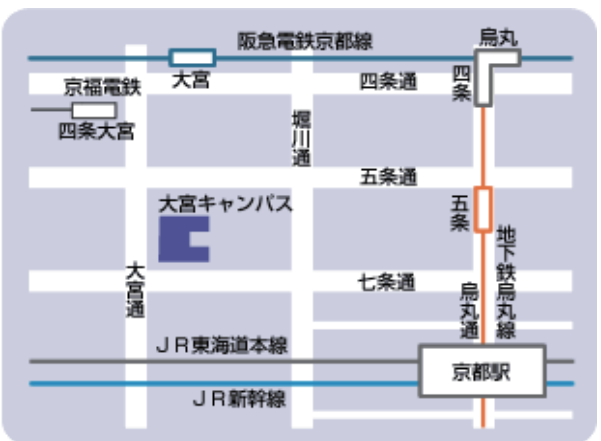
1974年、大阪府生。神戸大学大学院経済学研究科修了。経済学博士。大学院在学中にドイツ・ホーエンハイム大学へ留学し、ドイツの環境政策について学ぶ。01年へニッケ＆ザイフリートの著書を翻訳、『ネガワット－発想の転換から生まれる次世代エネルギー－』(省エネルギーセンター)として出版(ネガワット＝節電所)。02年より京都産業大学経済学部講師、05年より同大学准教授。ドイツ・EU・東アジア等の環境経済学・環境政策について研究・発表を続けるかたわら、03年「原子力発電所の事故被害額試算」を発表し、原子力発電のリスクの高さを指摘。同論文の一部は共同通信により記事として配信され、大きな議論を巻き起こした。2011年より関西学院大学総合政策学部准教授。

主著に『環境税制改革の「二重の配当」』(晃洋書房)、共著に『東アジアの環境賦課金制度－制度進化の条件と課題－』(昭和堂)など。京都在住。

龍谷大学里山学研究センター
龍谷大学が保有する森林「龍谷の森」は、かつて里山として利用され、現在は都市近郊型の里山としての利用が期待されています。当センターでは大学所有の森林を利用し、里山保全活動、里山研究、環境教育などを通して、現代的な里山の利用法について、総合的な研究を推進しています。

NGO e-みらい構想
福島原発事故を機に、学生・若手研究者が中心となって結成したNGOで、持続可能なエコロジー＆エネルギー政策の研究・普及を目的としています。特に脱原発と再生可能エネルギー促進に必要な政策、そしてその政策を実現するための行動を、市民と共に考え、学び、広める活動を行っています。

※本講演会は「NGO e-みらい構想」の学生・若手研究者の企画によるものです。



【龍谷大学大宮キャンパス】
〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
■アクセス　京都駅から市バスで約5分(七条大宮下車)又は徒歩約15分／阪急大宮駅から市バスで約5分又は徒歩約20分